

新たに選定保存技術が選定されました!

その1

「^{そう}箏製作」 保存団体：邦楽器製作技術保存会

箏は、重要無形文化財「^{そうきょく}箏曲」「^{じうた}地歌」をはじめ、歌舞伎や舞踊の上演などにも用いられる楽器です。
箏の製作は、「製材」「甲作り」「巻き」の工程に大きく分かります。
「製材」では、桐の丸太の木取りをし、箏の表板(甲といいます)のかたちに挽きます。

「甲作り」には、以下の工程があります。

甲削り・・・甲の表面を、甲羅状の山形に整えます。

^{なか}中削り・・・同じく、裏面を削ります。

綾杉彫り・・・裏面に彫りを入れます。

裏板付け・・・甲に裏板を接着させます。

甲焼き・・・表面をコテで焼きます。

磨き・・・表面を磨き、^{もくめ}空目を美しく浮かび上がらせます。

最後に「巻き」の工程となり、絃を乗せる部分や、絃を乗せる金具などを取り付け、完成です。
箏の製作には、適切な材を見極める技量と、それを加工する高度な技術が必要です。



甲削りの様子



完成品

その2

「三味線棹・胴製作」 保存団体：邦楽器製作技術保存会



三味線の胴

三味線は、重要無形文化財に指定されているさまざまな三味線音楽だけでなく、歌舞伎や文楽、舞踊の上演にも欠かせない楽器です。

三味線の製作工程は、「棹製作」「胴製作」「仕込み」「革張り」「仕上げ」があります。

このうち三味線の本体となる棹や胴をつくる「棹製作」「胴製作」は、重要な工程にもかかわらず、製作に携わる技術者が大変少なくなってきています。

材料となる木材は、棹には、主に^{こうき}紅木や^{したん}紫檀、^{かりん}花欄、胴には^{くわ}花欄や桑が使われます。

製作には、各部に最適な材を見極める技量と、材質それぞれの特性や、実演家の注文にも応じて加工する高度な技術が必要です。



三味線の棹磨きの様子